

公益目的事業 たたら製鉄の歴史と技術を保存、公開、実践することで日本の鉄文化を保護継承していく活動

1) 講演会

①鉄の歴史村フォーラム 2021 (鉄の歴史村文化事業 ; 鉄の歴史村フォーラム補助金事業)

- タイトル： 鉄の歴史村フォーラム 2021 「菅谷たたら山内総合文化調査報告会」
- 開催日： 令和3年12月4日(土)
- 場所： テクノアークしまね 中会議室
- 講師： 武藤美穂子、鳥谷智文
- 主催： 公益財団法人鉄の歴史村地域振興事業団
- 共催： 雲南市
- 後援： 雲南市教育委員会、鉄の道文化圏推進協議会、雲南市たたらプロジェクト会議、
伯耆国たたら顕彰会
- 業務委託： アエラ地域文化デザイン室、株式会社MOTTO、雲南夢ネット
- 開催方法： リアルタイム配信
後日、フォーラム動画については、鉄の歴史博物館内での放映、YOUTUBEでの動画配信を継続するとともに、ケーブルテレビで放映を行った。
- 参加： 12月4日ライブ配信視聴者数 YouTube 12名
3月9日時点の再生回数 YouTube 155回
プレゼント応募者数 1名
雲南夢ネット放映 1月29日 19:00~20:00、21:00~22:00
1月30日 7:00~8:00、13:00~14:00、
19:00~20:00、21:00~22:00
- 事業費：鉄の歴史村フォーラム補助金(雲南市)

開催趣旨：

菅谷たたら山内の総合的な調査による成果物は、昭和43年発刊『菅谷鑪』に始まりま
す。歴史学・民俗学・建築学の研究者が中心となり、住民への聞き取り調査、史料調査、
建造物や製鉄道具などの調査を通して、菅谷たたら山内に関する基礎資料が集成された。

その後、昭和61年11月に開催した第1回シンポジウム「人間と鉄」以来、多くの研
究者の方々のお力添えにより、様々な切り口による調査研究を継続してきた。今回のフ
ォーラムは『菅谷たたら山内総合文化調査報告書2』に寄稿いただいた菅谷鑪山内の施設・
建造物・設備に関する論文、住居・生活様式に関する論文について、2名の研究者の方か
ら発表いただいた。

開催内容：

●武藤美穂子氏（㈱文化財保存計画協会、研究員）

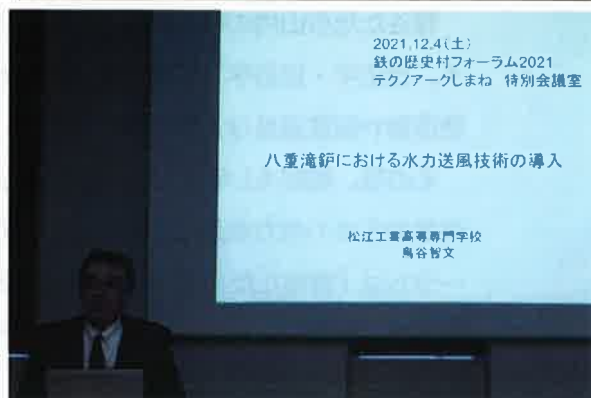
演題：『菅谷たたら山内』における長屋の考察

菅谷たたら山内にある「長屋」に焦点を当てて、山内生活における長屋の意義を発表いただいた。まず、長屋という形態の歴史の変遷を整理された上で、山内にある元小屋隣の三軒長屋、その向かいの柿葺二軒長屋、そして山内の南端にかつて位置していた茅葺二軒長屋について、現状の間取りや設備を調査し、当時暮らしていた住民の方からの聞き取り調査等を踏まえて、当時の内部の様子について説明いただきました。これらの調査結果から、菅谷たたら山内の長屋が近世～昭和の暮らし振りが凝縮された重要な建物であるという研究発表をいただいた。

●鳥谷智文氏（松江工業高等専門学校、人文学科教授）

演題：「八重滝鉦における水力送風技術の導入」

田部家が提出したシカゴ万博の報告書や、鳥取の近藤家が八重滝鉦を視察した報告書などの古文書から、雲南市掛合町にあった八重滝鉦へいち早く導入された水力送風装置の状況や、その効果を明らかにしていくという発表をいただいた。この装置は、これまでの天秤ふいごと異なり、風量が強くなることから、銑生産が増加するメリットがある一面、導入には莫大な費用がかかるというデメリットもあり、田部家はこれを負担してまでも技術改良に踏み切ったことなど、多くの新知見を発表いただいた。



チラシ



島根県雲南市吉田町

鉄の歴史村フォーラム 2021

第2回 菅谷たたら山内総合文化調査報告会

オンライン
報告会

菅谷たたら 山内

菅谷たたら山内とは、永代たたらをそなえた「高殿」を中心に、元小屋、米倉やたたら師の住む長屋などを有する、我が國のたたら山内の唯一残存例であり、国の重要有形民俗文化財として指定されています（昭和42年）。

また、「村下」の居住した長屋（村下屋敷、三番屋敷、二番屋敷）とその土地は、たたら製鉄の操業当時の山内の様相を示すものとして追加指定されています（平成25年）。当地域の生活史総体の歴史や文化は、後世に継承すべき価値のあるものとして知られているところです。

本フォーラムでは、『菅谷たたら山内総合文化調査報告書2』（令和2年度菅谷たたら山内活用補助金/雲南市教育委員会）に基づき、当地域における最新の文化調査成果をご報告します。

YouTube ライブ配信

ケーブルテレビ「うなん夢ネット」配信（後日）

視聴方法は「鉄の歴史村」で検索

<http://www.tetsunorekishimura.or.jp>

12/4 14:30 開会
【土】

14:30 開会あいさつ

14:50 発表①『「菅谷たたら山内」における長屋の考察』

武藤美穂子氏 株式会社文化財保存計画協会 研究員

15:25 発表②『八重滝釜における水力送風技術の導入』

鳥谷智文氏 松江工業高等専門学校 人文科学科教授

15:55 まとめ・閉会

*ライブ報告による事情でプログラムの一部変更の場合もございます。

主催：公益財団法人鉄の歴史村地域振興事業団

共催：雲南市

後援：雲南市教育委員会、鉄の道文化圏推進協議会、雲南市たたらプロジェクト会議、伯耆国たたら顕彰会

お問い合わせは



(公財)
鉄の歴史村
地域振興事業団

島根県雲南市吉田町吉田 892 番地 1

TEL : 0854-74-0311

E-mail zaitetsu@i-yume.ne.jp



②いいね！TATARA 部（たたら文化発信事業；菅谷たたら山内活用事業補助金の一部）・・・中止

新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、活動を自粛した。

趣旨 たたら文化に関する市・県民協働の取り組みのみならず、市に隣接する文化施設関係者や自治体と研究会などを実施し、接続性のある事業活動を目指していた事業。

2) 体験事業

令和2年度に和鋼生産研究開発施設を雲南市に寄贈し、雲南市和鋼生産たたら体験交流施設という名称に変更となった。令和3年度からは上記施設の指定管理業務を行った。

近代たたら操業は、年3回実施いただいた。(株式会社たなべたたらの里様2回、日本鍛冶学会様1回)。

ペーパーナイフづくり体験では、新型コロナウイルス感染症拡大により、中止とした期間があったこともあり、50名の参加にとどまった(令和2年度は61名)。

①近代たたら操業（近代たたら操業観光体験支援事業；近代たたら操業観光体験事業委託費）

1) 田部家のたたら吹き（1回目）

日本が誇るべきたたら文化の継承、人材育成、地域づくりを目的に田部家が推進する「たたらの里づくりプロジェクト」の一環としてたたら操業を再興し、新たな価値を創造するために近代たたら操業に臨まれた。

実施内容：	5月25日（火）	土づくり
	26日（水）	薪積み、灰すらし3回
	27日（木）	灰すらし3回、土団子づくり 元釜・中釜設置、土張り、炉の乾燥
	28日（金）	上釜設置、乾燥
	29日（土）	安全祈願、火入れ、炭切り作業
	30日（日）	鋳出し

参加者：たなべたたらの里プロジェクト参加者 約20名

原材料投入：砂鉄647kg、木炭718kg

鍋量：146kg（南北100cm、東西40cm、厚さ30cm）

事業費：操業実費分を株式会社たなべたたらの里様が負担、作業賃金、指導者経費等は菅谷たたら山内活用補助金で実施。

2) 日本鍛冶学会

日本鍛冶学会は、刃物産地を超えた鍛冶職人が中心となり、技術や情報を共有して日本の鍛冶

令和3年度 公益財団法人鉄の歴史村地域振興事業団 事業報告書

職人の更なる地位向上を目指して組織された団体である。その取り組み方針として「原点に戻る」をキーワードに、生業の原点（たたら）を学び、先人から学んだことを理解し、ステップアップを図ることを目的に近代たたら操業に臨まれた。

7月20日（火）	操業日程の確認
21日（水）	灰すらし6回、土団子づくり
22日（木）	中釜づくり、土張り、炉の乾燥
23日（金）	上釜設置、炭切り作業
24日（土）	安全祈願、火入れ
25日（日）	鍋出し

参加者 : 日本鍛冶学会の会員、準会員、事務局 約20名

原材料投入 : 砂鉄572kg、木炭727kg

鍋量 : 135kg（南北90cm、東西50cm、厚さ15cm）

事業費 : 操業実費分を日本鍛冶学会様が負担、作業賃金、指導者経費等は近代たたら操業観光体験事業委託費から支出。



3) 田部家のたたら吹き (2回目)

実施内容: 10月27日 (水)	土づくり、灰すらし3回
28日 (木)	灰すらし3回、土団子づくり 元釜・中釜設置、土張り、炉の乾燥
29日 (金)	上釜設置、炭切り作業
30日 (土)	安全祈願、火入れ
31日 (日)	鋳出し

参加者 : たなべたたらの里プロジェクト参加者 約20名

原材料投入: 砂鉄726kg、木炭800kg

鋳量 : 133kg (南北90cm、東西60cm、厚さ13cm)

事業費 : 操業実費分を株式会社たなべたたらの里様が負担、作業賃金、指導者経費等は近代たたら操業観光体験事業委託費から支出。



4) たたら炉の改修

平成28年度に炉の大規模改修を行った後、操業回数が年1回から年3～4回に増えたことにより、炉の内部に設置する耐火物の剥がれ落ちと、炉を覆う鉄皮の歪みが進み、劣化が進んできた。

操業ごとに耐火物の張り直し等を行ってきたが、限界にきていること、鉄皮の歪みは元釜、中釜の接地面に隙間が生じることから、操業時の保温率の低下につながり、理想的な操業が実施できない状況にあったため改修工事を行った。

[構造、材質等]

近代たたら操業炉としては、まず繰り返し使用できる構造であること、操業時の千数百度に長時間耐える耐火性である。よって、内部は耐火物、外部はその形状を保つための金属製（鉄皮）の構造が必要となってくる。

炉の更新にあたっては、鉄皮の厚みを3mm厚くしたこと、元釜と中釜の接地面にカギ状の掛かりを付けることで保温性を高めた。また、操業時の効率性を上げるため、炉づくり時に設置していた上釜を、中釜にあらかじめ設置した。

[改修のスケジュール]

令和3年12月16日	缶体製作確認
令和4年1月7日	缶体完成品確認
令和4年3月18日	炉の検品
令和4年3月29日	炉の納品

工事費 : 2,145,000円

事業費 : 近代たたら操業観光体験事業委託費から支出。



②小だたら操業

永田式小だたら操業の指導者育成のため、永田理事指導の下、下記日程で小だたら操業が実施された。

体験者 : 永田式小だたら操業の指導者育成事業参加者、財団職員

操業日 : 3月13日(日)

操業記録 : 砂鉄 : 20kg、木炭 : 70kg

鋼量 : 6.2kg

参加数 : 約5名

事業費 : 材料費は参加者負担、施設使用料・光熱水費は近代たたら操業観光体験事業委託費から支出。



③ペーパーナイフづくり

五寸釘を使った手軽にできるペーパーナイフづくり体験を受けれた。コロナ禍により、受け入れは50名に留まった。(令和2年度61名、令和元年度186名)

島根県および島根県東部勤労者共済会は、体験者に対し、体験料の補助を行っているが、今年度の利用はなかった。

体験者数 : 50名

内訳 ; 正規料金(2,000円)での体験 50名

割引料金(観光券、共済助成等)での体験 0名

④うなんんこども冒険団(菅谷たたら山内に生息するオオサンショウウオの保護活動)・・・中止

令和3年度事業計画では、菅谷たたら山内に生息するオオサンショウウオの生息調査、繁殖確認を実施し、観察会を行う予定であったが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、実施を断念した。

⑤鉄・体感イベント・・・中止

令和3年度におけるイベントの実施は、新型コロナウイルス感染症拡大の推移を見ながら実施の判断する予定としていたが、収束の見込みが立たなかったため実施を断念した。

3) 公開展示施設の運営（指定管理業務）

令和3年度から令和5年度までの3か年度において、菅谷たたら山内及び周辺施設、吉田町郷土文化伝習施設（鉄の歴史博物館）の指定管理業務を行っている。

令和3年度の公開展示施設の運営に関しては、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、ツアーや団体での利用の中止や順延があった。

コロナ感染症蔓延にともなう人流抑制・職員の安全管理、冬季期間の入館者数減にともない、2月17日～3月19日のあいだは、事前予約制による開館とした。

これらコロナウイルス関連による事業収益の減、雇用の持続のため、臨時職員は上記期間休業とし、その賃金補填として休業給付金の申請を行った。

①菅谷たたら山内及び周辺施設

ア)「おうちミュージアム」を活用したオンライン配信

おうちミュージアムとは、北海道博物館が提言した自宅で楽しみ学ぶためのコンテンツであり、当事業団もこの活動に参加した。

菅谷たたら山内の紹介では、炭焼きの様子を動画に撮り、YouTube およびホームページで公開継続している。

おうちミュージアムとは、北海道博物館が提言した自宅で楽しみ学ぶためのコンテンツであり、当事業団もこの活動に参加した。

菅谷たたら山内の紹介では、炭焼きの様子を動画に撮り、YouTube およびホームページで公開した。



イ) 元小屋の活用

コロナウィルス蔓延防止のため、実績なし

②鉄の歴史博物館

ア) 「おうちミュージアム」を活用したオンライン配信の継続

鉄の歴史博物館オンライン企画展「幕末明治 吉田の町と人々」

第1回 幕末における町のようすー若槻屋文書からー

講師；鳥谷智文氏

<https://www.youtube.com/watch?v=CXATNPNI-ss>

YouTube JP

検索



第2回 吉田町の歴史探訪

講師；鳥谷智文氏

出演；内藤芳文氏、井上量夫氏、朝日光男、田部富雄

YouTube JP

検索



鉄の歴史博物館オンライン企画展「幕末明治 吉田の町と人々」より第2回 「吉田町の歴史探訪」

137 回視聴・2021/03/15

👍 2 🗨️ 10 ➡️ 共有 📌 保存 ...

第3回 吉田町衆と小鍛冶座

講師；鳥谷智文氏

出演；上代鍛冶屋さん、八日市地域づくりの会ほか



※共通

鉄の歴史博物館オンライン企画展「幕末明治 吉田の町と人々」より第3回 「吉田町衆と小鍛冶屋」
66回視聴・2021/03/29

過去に作成された収藏品台帳を基にして、現状の収藏品との照合作業や所在確認を行った。

③利用実績

- ・菅谷たたら山内及び周辺施設
入館者数：4,676人（前年度3,689人）
- ・鉄の歴史博物館
入館者数：2,837人（前年度2,133人）

4) 調査研究・資料収集（たたら文化発信事業；菅谷たたら山内活用事業補助金）

雲南市の「菅谷たたら山内活用事業補助金」で平成29年度から実施している菅谷たたら山内の総合文化調査および比較研究について引き続き着手した。

① 菅谷たたら山内とその周辺におけるたたら製鉄の比較研究

菅谷たたら山内とその周辺における、たたら製鉄と医療、町衆、人生儀礼、他の鉄師との関係性を調査し、報告書にまとめた。

執筆者は、鳥谷智文氏（松江工業高等専門学校、人文科学科教授）、小原清氏（民俗芸能学会会員）、鈴木昂太氏（東京文化財研究所、無形文化遺産部、研究補佐）、高橋誠二氏（雲南市教育委員会、文化財課、主幹）、角田徳幸氏（島根県古代文化センター長）、武藤美穂子氏（株式会社文化財保存計画協会、研究員）に委嘱した。令和3年度の成果として報告書を刊行した。



② 所蔵品の調査に関する手続き

当事業団が管理運営する指定管理施設に所蔵されている寄贈品、寄託品等の資料について、調査を開始するための準備を進めた。

また、地域の生活史を把握するため、個人蔵の古写真データに関する整理事業を進めている。令和3年度は吉田町吉田在住の個人様の協力を得、古写真データ 359 点の目録を作成し、スキャンデータにまとめた。

なお、令和3年度中に財団へ寄贈となった資料は以下の通り。

- 雨川家文書・・・菅谷鈺に関する明治から大正期の文書（9月25日の理事会で報告済）

③ 調査協力・取材協力の対応

2021年10月から、調査や取材対応に関する申請証・申請許可証を作成し運用した。これにより、対外的に丁寧な対応で調査協力・取材協力をすすめることができた。令和4年度以降も対外的な対応の一層の効率化を図ることで、公益性の高い教育機関・地域振興機関として財団事業をすすめる。

●取材協力・調査協力（2022年10月1日～）

・計9件

（内訳）

- ・たたら鍛冶工房 1件
- ・鉄の歴史博物館 2件
- ・菅谷たたら山内 6件

※雲南市たたらプロジェクト会議による文化庁事業につて

雲南市では、「たたら文化の資源の価値の見直し、掘り起こしを市民全体で行い、市民のシビックプライドの確立を図ること」を目的に、雲南市たたらプロジェクト会議を組織し、当事業団もその構成団体のひとつとして事業に加わってきた。

令和3年度では、文化庁の「雲南市たたら文化遺産総合活用推進事業」として、次の事業を実施した。

雲南市たたら文化遺産総合活用推進事業

1. 地域文化遺産を活用した人材育成事業
 - (1) 「たたら文化伝道師」認定制度策定事業
 - (2) ヘリテージツーリズムマネージャー養成講座事業
2. 地域遺産文化遺産の普及啓発事業
 - (1) 「たたら文化」インターンシップ受入事業

(2) 雲南たたら市民フォーラム事業

3. 地域文化遺産を活用したインバウンド対策事業

(1) 多言語化によるインバウンド受入体制構築に向けた基盤整備事業

(2) 多言語による総合的防災対策促進事業

このうち、当事業団では「たたら文化伝道師」認定制度策定事業、ヘリテージツーリズムマネージャー養成講座事業、雲南たたら市民フォーラム、「たたら文化」インターンシップ受入事業について雲南市とともに実施した。

特にインターンシップ生受け入れについては、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により県外往來の自粛要請もあり、活動できていない。

収益事業 博物館等公開展示施設における商品の販売

来客者の減少から博物館及び菅谷たたら山内の物販収益については、昨年度と同額となった。また、株式会社たなべたたらに里様に鋳（300kg：2,250,000 円）をご購入いただいたことにより、全体の収益額が増えたものの、収益事業にあたる人件費の関係で、当期経常増減額については251,627円の赤字となった。

今後も素材（鋳）や半製品の販売、販売商品の開発、販売方法を工夫し、増収を図っていく。

1) オリジナル商品の開発、販売

2) 委託商品販売

管理部門

1) 賛助会員の確保と普及活動（賛助会員数：個人105、団体7）

- ・来訪者、体験事業、フォーラム参加者への働きかけ
- ・ホームページ、賛助会誌での事業PR
- ・賛助会誌の発行

2) 理事会の開催

4月28日（書面）、5月11日（オンライン）、6月12日（書面）、6月13日、9月25日（オンライン）、2月1日（書面）、3月12日

3) 評議員会の開催

5月14日、6月30日、3月12日

4) 職員の退職

3月31日 峠 理恵